

令和 8 年度 馬込アートギャラリー

熊谷恒子関連常設展「熊谷恒子の世界 第Ⅱ期『土佐日記』」の開催について

■展覧会内容

馬込アートギャラリーは、区民から寄贈された大田区ゆかりの作品を所蔵・展示し、地域の創造力を育む施設です。熊谷恒子記念館から徒歩 2 分の大田区立馬込アートギャラリー2 階展示室において、書家・熊谷恒子（1893～1986）の愛用品を通して、かな書家としての歩みを紹介する常設展を開催します。

今期は、恒子がかな書を本格的にはじめた 1933 年に、第四回泰東書道院展においてかな書の特選である東京日日・大阪毎日新聞社賞を受賞した《土佐日記（初巻）》を展示します。恒子は、本作品を制作するにあたり、「古筆の研究にまだ日の浅い私は、書いて見たい気分と書きあらはせられない気分とに挟まつて、云ふにいはれぬ苦しい思ひ」（註）をしたと当時の心境を振り返っています。

『土佐日記』は、紀貫之が失った最愛の娘を偲んで、女性を装ってかな書で綴られたともいわれており、恒子は「日記中には洒脱な諧謔あり、辛辣な皮肉あり、また感傷的なところもあつて、紀貫之の人間味が躍如としてあらはれ、且又非常に文藝的な作品」（註）と『土佐日記』を評価しています。恒子は『土佐日記』の全文を何度も練習した後に、冒頭部分を選択して《土佐日記（初巻）》を制作しました。

本展では、日頃から揃えていた「筆、硯、紙、墨」の文房四宝の他に、文鎮や水滴、書道具箱など恒子の愛用品とともに、恒子が 1933 年に制作した『土佐日記』を題材とした作品資料や第四回泰東書道院展の図録などを展示します。

註
熊谷恒子「云ふに云はれぬ思ひ」『書道』第 3 巻第 2 号、泰東書道院展、1934 年 2 月

■会期

2026 年 7 月 11 日（土）～2026 年 11 月 29 日（日）

開館時間：9：00～16：30（入館は 16：00 まで）

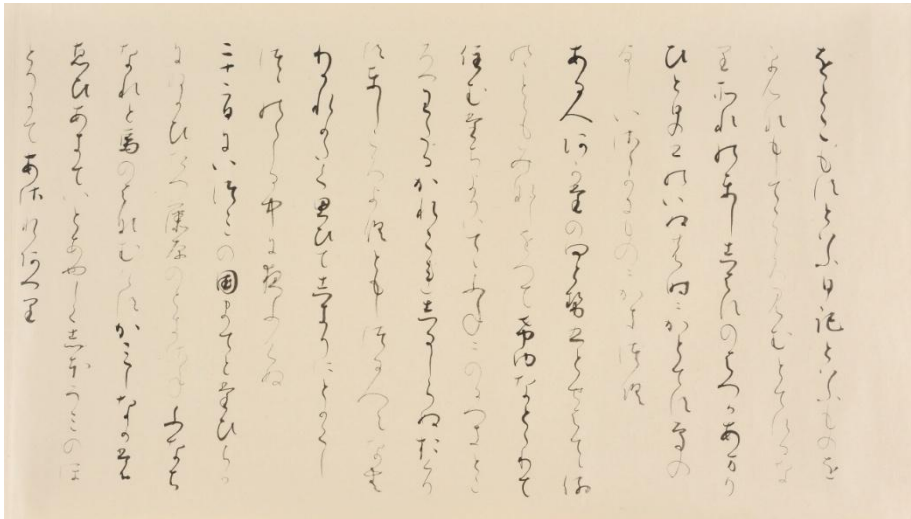
休 館 日：毎週月曜日

入 館 料：無料

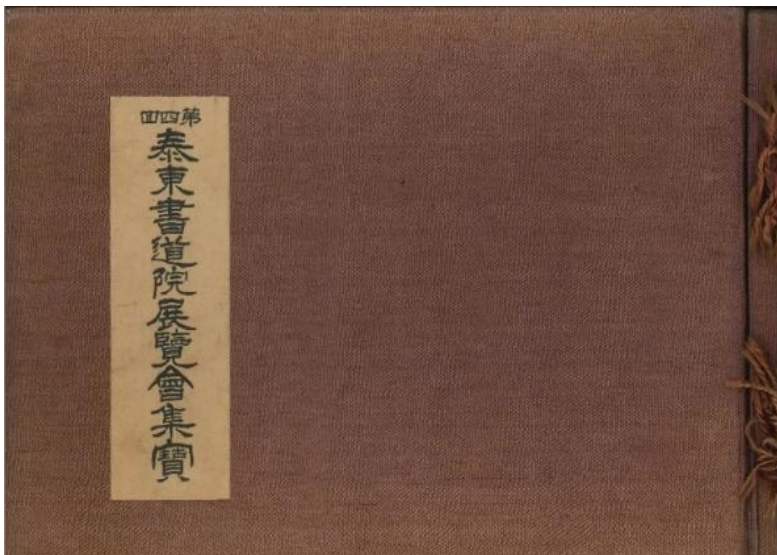
■会場

大田区立馬込アートギャラリー 2 階展示室 大田区南馬込 4-10-4 （交通案内は 3 ページをご覧ください。）

■主な展示作品



熊谷恒子《土佐日記（初巻）》1933 年、大田区立熊谷恒子記念館所蔵



泰東書道院刊行図録『第四回泰東書道院展覧會』1933 年、大田区立熊谷恒子記念館所蔵



熊谷恒子所用《水鳥形水盂》
大田区立熊谷恒子記念館所蔵



熊谷恒子所用《南瓜形書鎮》
大田区立熊谷恒子記念館所蔵

■関連イベント

○ギャラリートーク

日 時：7月18日（土）、8月23日（日）、9月20日（日）、10月25日（日）、11月3日（火・祝）
11月22日（日）

各日とも熊谷恒子記念館にて13:00から開催し、14:00からは馬込アートギャラリーに移動して常設展について解説する。

会 場：大田区立馬込アートギャラリー 2階展示室

○熊谷恒子文庫

熊谷恒子に関連する図録や書道に関する書籍を2階常設展展示室で本棚から手に取って閲覧できます。

会 場：大田区立馬込アートギャラリー 2階展示室

■広報についてのお問合せ

本展をご紹介いただける場合にかぎり、作品画像をご利用いただけます。作品画像の使用に関しては、下記までお問い合わせください。

※作品画像のほか当館の外観の画像もご用意しております。

※使用に際しては、掲載内容・放映内容を事前に確認させていただきます。

※使用後、掲載誌および放映が記録されたメディアを見本として当館までご送付ください。

<問合先>

大田区立熊谷恒子記念館 担当学芸員 飯島

〒143-0025 東京都大田区南馬込 4-5-15 TEL&FAX 03-3773-0123

■交通

○JR京浜東北線 大森駅西口から

東急バス4番「荏原町駅入口」行乗車「万福寺前」下車、徒歩5分

○都営地下鉄浅草線 西馬込駅南口から

南馬込桜並木通り（桜のプロムナード）に沿って徒歩10分

